



化学物質リスクコミュニケーションについて

福島キャノン株式会社

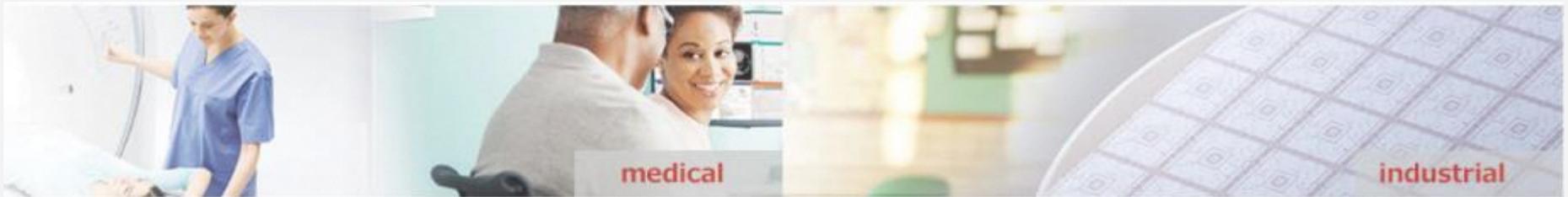


- 会社概要/事業紹介
- キヤノンの環境情報の公開
- 福島での取り組み
 - リスクコミュニケーション
 - 環境への取り組み
 - 化学物質管理
 - 今後の取り組み

会社概要



キヤノングループ



カメラ



医療機器



監視カメラ



産業機器



コピー機



プリンター

会社概要 福島キヤノン



インクジェット関連事業

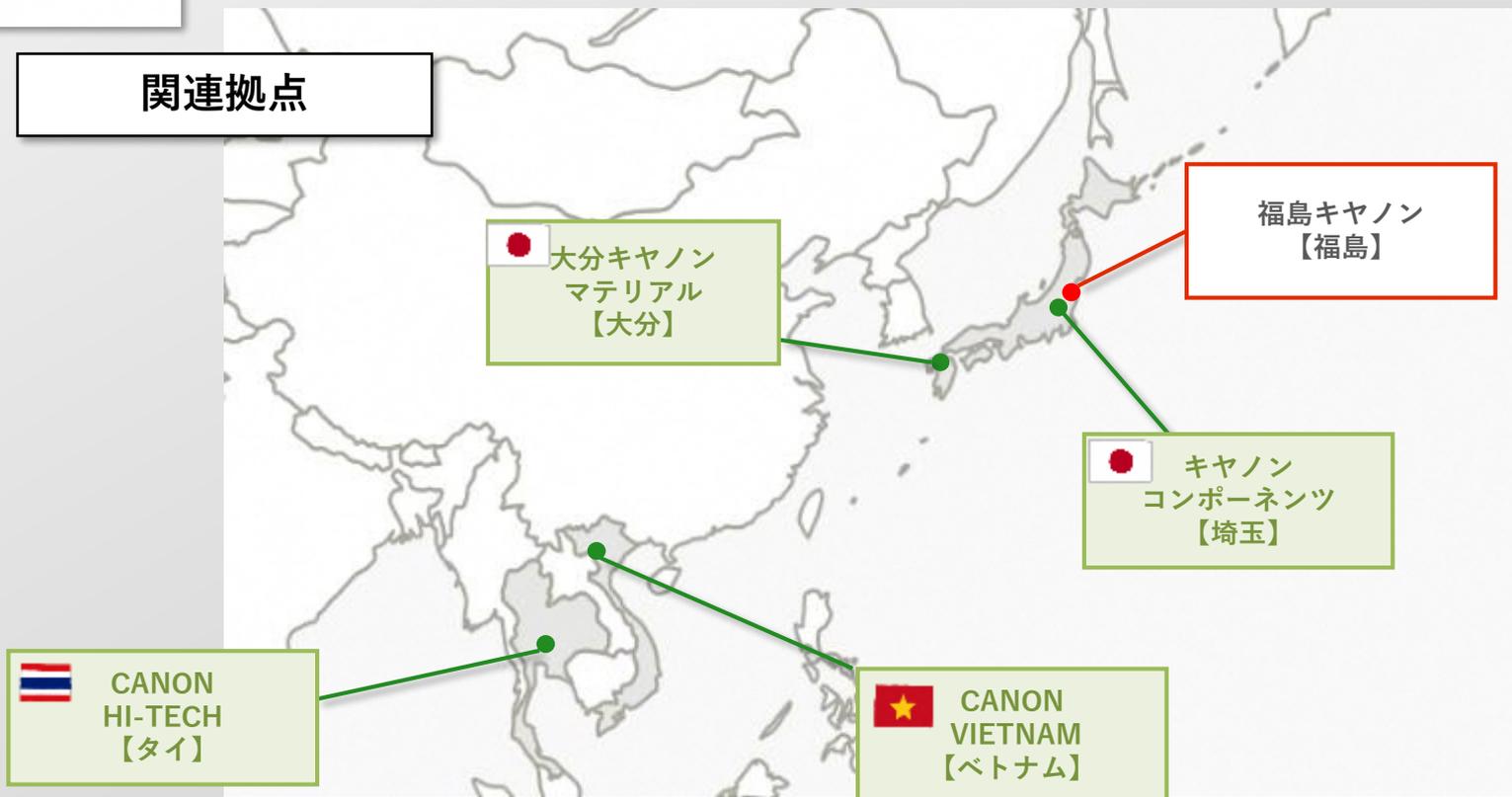


インクタンク



プリントヘッド

関連拠点



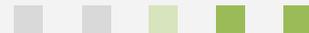
会社概要 福島キヤノン



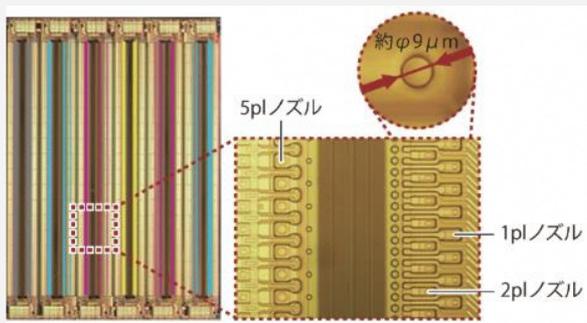
- 設立 1969年12月
- 従業員数 1,643名（2022年1月現在）
- 事業内容 インクジェット事業/生産技術/システム評価事業



事業紹介



インクジェット事業



プリントヘッド製造技術



プリントヘッド



インクタンク



業務用フォトプリンター



ビジネスインクジェットプリンター

事業紹介



生産技術

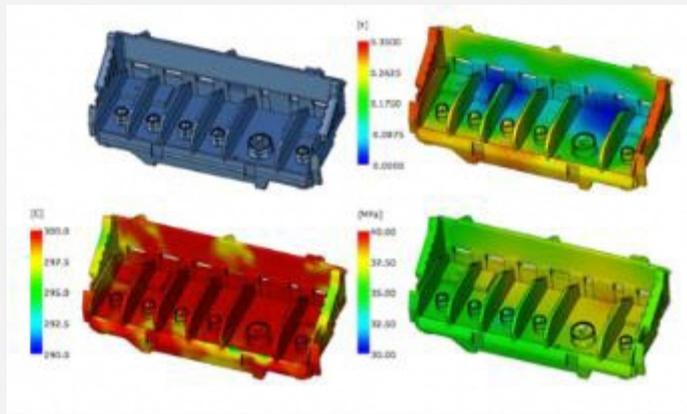


超精密生産装置の内製化

システム評価事業



ソフトウェア評価



シミュレーション技術



検証の自動化

キヤノンの環境情報の公開



環境情報の公開



キヤノン サステナビリティレポートにて情報公開

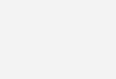


地球環境の保護・保全

目次			
01	本レポートについて	49	活動報告
03	キヤノンの企業理念	51	新たな価値創造、社会課題の解決
05	キヤノンの歩み	55	地球環境の保護・保全
07	キヤノンのいま	77	人と社会への配慮
09	財務・非財務ハイライト	77	人権と労働
11	CEOメッセージ	94	製品責任
17	方針と戦略	100	社会貢献
17	経営計画の変遷	103	ステークホルダーエンゲージメント
20	新型コロナウイルス感染症への対応	105	経営基盤
21	サステナビリティの考え方	105	役員一覧
23	持続可能な社会への貢献(価値創造)	107	コーポレート・ガバナンス
25	マテリアリティとSDGs	113	リスクマネジメント
27	マテリアリティに沿ったアプローチ	119	サプライチェーンマネジメント
35	事業戦略	125	知的財産マネジメント
		126	ブランドマネジメント
		127	データ集・企業情報
		127	財務データ
		129	地球環境の保護・保全
		134	人と社会への配慮
		138	第三者意見
		141	第三者保証
		143	企業情報

キヤノングループのサステナビリティ情報発信体系

キヤノンは、毎年、「キヤノンサステナビリティレポート」を日本語と英語の2言語で発行しています。さらにWebサイトでは、より詳細な情報をタイムリーに発信しています。このほか、各国・地域のグループ会社でも、それぞれのニーズや状況に応じた情報をWebサイトや各種報告書にて発信しています。

 サステナビリティサイト https://global.canon/ja/sustainability/	 キヤノンマーケティングジャパン サステナビリティサイト https://canon.jp/corporate/csr/	 キヤノン中国 CSRサイト https://www.canon.com.cn/csr/
 CANON SUSTAINABILITY REPORT 2022 キヤノン統合報告書(本誌)	 キヤノンUSA サステナビリティサイト https://www.usa.canon.com/internet/portal/us/home/about/environment-sustainability-initiatives	 キヤノンオーストラリア/キヤノンニュージーランド サステナビリティサイト https://www.canon.com.au/about-canon/sustainability
	 キヤノンヨーロッパ サステナビリティサイト https://www.canon-europe.com/sustainability/	

サステナビリティレポート 紹介



キヤノンの環境への考え方

キヤノングループ環境憲章

企業理念: 共生

- 世界の繁栄と人類の幸福のために貢献すること
- そのために企業の成長と発展を果たすこと

環境保証理念

世界の繁栄と人類の幸福のため、資源生産性の最大化を追求し、持続的発展が可能な社会の構築に貢献する。

環境保証基本方針

すべての企業活動、製品、およびサービスにおいて、環境と経済の一致を目指し (EQCD 思想)、資源生産性の革新的な改善により、「環境負荷の少ない製品」を提供するとともに、人の健康と安全および自然環境を脅かす、反社会的行為を排除する。

EQCD 思想

E: Environment (環境保証)	環境保証ができれば作る資格がない
Q: Quality (品質)	品質が良くなければ売れる資格がない
C: Cost (コスト)	コスト、納期が達成できなければ競争する資格がない
D: Delivery (納期)	

1. グローバルな環境保証推進体制・組織を最適化し、グループの連結環境保証を推進する。
2. 製品のライフサイクル全体の環境影響を評価し、環境負荷の極小化に配慮する。
3. 環境保証に不可欠な環境保証技術とエコ材料等の研究・開発を推進し、その成果を広く社会へ還元する。
4. 企業活動のあらゆる面で、国/地域の適用される法律、およびその他の利害関係者との合意事項を遵守すると共に、省エネルギー、省資源、有害物質の廃除を推進する。
5. 必要な資源の調達・購入に際して、より環境負荷の少ない材料・部品・製品を優先的に調達・購入する。(グリーン調達)
6. EMS (環境マネジメントシステム) を構築し、環境目的・目標を定めて定期的に見直し、環境汚染・災害の防止と、環境負荷の継続的な改善を行う。
7. すべての利害関係者に対し、環境負荷と環境対応状況を積極的に公開する。
8. 社員一人ひとりの環境意識を高め、自らが環境保全活動を遂行できるよう、環境教育・啓発活動を展開する。
9. 行政機関、地域や関係団体等との連携を密にし、社会全体の環境保全活動に積極的に参画・支援・協力する。

2007年3月23日
キヤノン株式会社
代表取締役会長

御手洗富士夫

キヤノン 環境ビジョン



キヤノンは、
あらゆる企業活動を通じて、
さまざまな技術革新と経営効率の向上により、
企業の持続的成長を目指すとともに、
豊かな生活と地球環境が両立する社会を実現します。

そのために、
「つくる」「つかう」「いかに」、
すべての製品ライフサイクルにおいて、
より多くの価値を、より少ない資源で提供することで、
「製品の高機能化」と「環境負荷の最小化」を同時に達成します。

また、お客様やビジネスパートナーの皆様とともに、
この取り組みを拡大していきます。
豊かさと環境が両立する未来のために、
キヤノンは技術革新で貢献していきます。

サステナビリティレポート 紹介



有害物質排除と汚染防止の取り組み

化学物質管理の考え方

製品含有化学物質

基準値を超えた化学物質を
含有させない

生産工程で使用する化学物質

事業拠点から基準値を超えた
化学物質を排出させない

製品含有化学物質の管理

3種類の分類

使用禁止物質・・・使用を禁止する

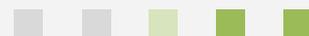
使用制限物質・・・今後の使用を禁止するため代替に努める

含有管理物質・・・含有量を管理する

化学物質情報伝達スキーム「chemSHERPA※」の活用と推進

※経済産業省主導で2015年にリリースされたデータ作成支援ツール

サステナビリティレポート 紹介



有害物質排除と汚染防止の取り組み

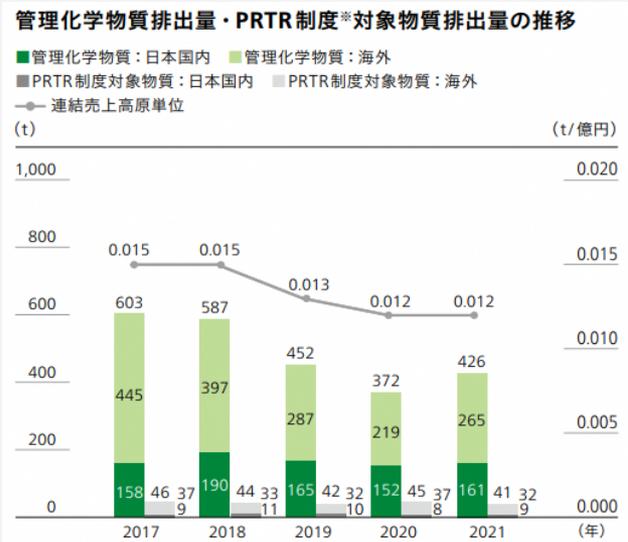
生産工程で使用する化学物質の管理

法律等に応じ3つのレベルに分類して対策を講じる

「Aランク：使用禁止」 「Bランク：排出削減」 「Cランク：規制対象」

管理化学物質の使用量・排出量の削減

生産プロセス改善による化学物質の使用量削減や再利用など
様々な取り組み



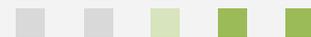
福島での取り組み



福島での リスクコミュニケーション



実施にあたっての考え方



化学物質情報の公開

いろいろな情報を
公開する会社という認識を
持ってもらう

福島キャノン
は信頼できる会社であるという
イメージの定着

各種情報の
公開

近隣住民との信頼関係



実施順

福島での地域とのコミュニケーション



佐倉下地区懇談会

- ・地域と会社の役員が参加
- ・会社紹介プレゼン
(社員数や生産状況など)



二本榎町会

- ・町内会の総会 & 懇親会
- ・他近隣企業も参加
- ・会社の近況など報告

奥玉神社夏祭り



- ・近隣の神社の祭り（招待）
- ・プリントサービス提供
- ・懇談

近隣の小学校

- ・会社見学



地区の清掃活動

- ・荒川クリーンアップ大作戦
- ・佐倉下地区の清掃活動



納涼祭



コロナ禍で参加できないものもあるが、昔から地域とさまざまな交流がある

福島での地域とのコミュニケーション



近隣の神社の夏祭り



夏祭りでのプリントサービス提供



環境授業



近隣のみなさんと清掃



側溝掃除のようす



近隣の小学生の会社見学

活動紹介



－ 棚田生態系再生プロジェクト －

- 「小鳥の森※」との共同企画 ※福島市の自然保護区
- 2019年の台風により土砂が堆積してしまった棚田を再生し、希少なトンボ類や底生生物が生息できる環境づくりを目指し活動



社員ボランティア
による作業



再生した棚田



戻ってきた
モートナイトトンボ

活動紹介



— ジュニアフォトグラファーズ —

- 近隣の小学校等で行う写真教室
- 自然をテーマとした写真撮影の体験を通じて、子供たちの環境に対する意識を高めるとともに、豊かな感性を育む



会社紹介や
カメラの使い方講座



一人1台のカメラを持ち
撮影する子供たち



作品例

活動紹介



— 環境出前授業 —

- 近隣の小学校等で行う環境問題についての授業
- 環境を通して次世代を担うこどもたちの育成・支援をする
- 実験等を取り入れ、楽しく学んでもらう



環境に関する
授業の資料例



分別（リサイクル）実験



プリンター分解実験

活動紹介



— 清掃活動 —

- 福島キャノン日本一の清流「荒川」のすぐ隣に位置している
- 荒川を守るため、川沿いの清掃活動を行っている
- 地域の清掃活動にも定期的に参加している



川沿いの清掃活動



地域の清掃活動に参加

福島キヤノンの 環境への取り組み



環境への取り組み



1

社内での工場排水処理



荒川

12年連続水質全国一

工場排水は
自社の排水処理設備で浄化処理

自動監視装置で24時間水質チェック



排水処理設備

各種環境自主測定

水質

放流水、各排水処理設備からのサンプリングで確実な基準値遵守

騒音・振動

自主測定

ばい煙

ボイラーの排ガス

悪臭

敷地境界と排気口の自主測定

地下水

自社井戸についてサンプリング

環境への取り組み

3 廃プラスチックゼロに向けて

自社から排出される廃プラスチックを「ゼロ」にすることを目指し
さまざまな取り組みを行っています

基本は分別の徹底による有価物化！



同じ材質は
漏れなく集める！



職場の排出物置場

全社員への
分別の
意識・習慣付け

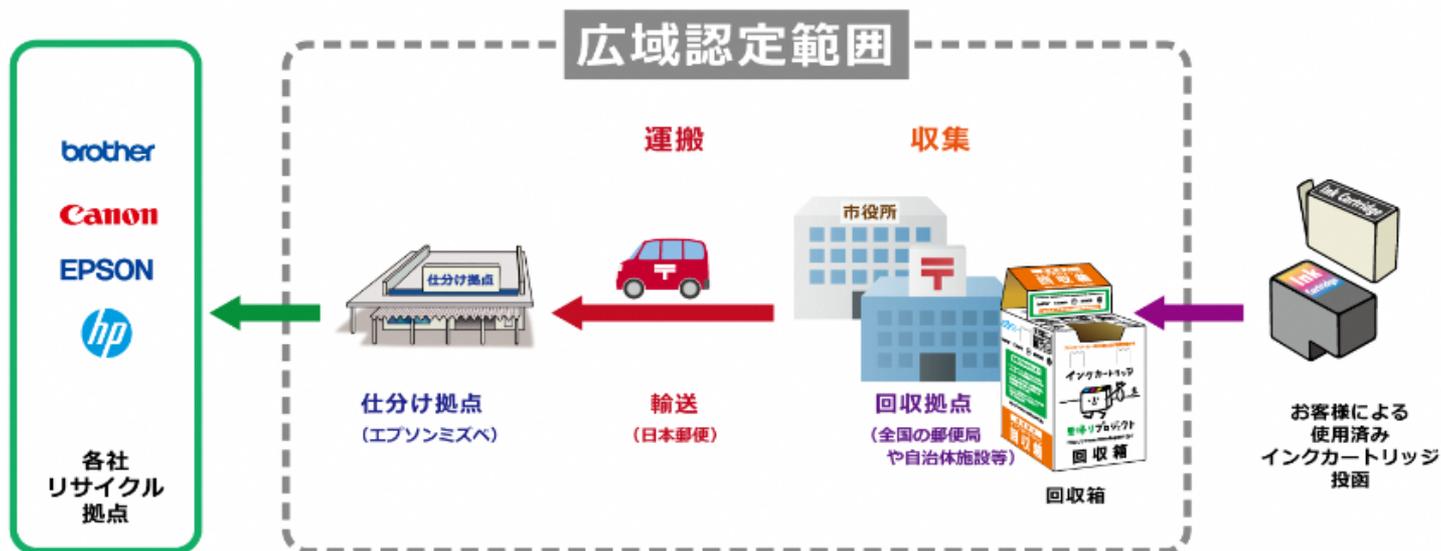


啓蒙資料の発行



インクカートリッジ里帰りプロジェクト

- プリンターメーカーが共同で運営するプロジェクト
- 使用済みインクカートリッジの回収～再資源化までのリサイクル活動を推進



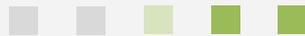
環境への取り組み



福島キヤノンでは、回収されたインクカートリッジを製品原料にリサイクルする活動をしています。



福島キヤノンの化学物質管理





1 使用化学品を全てシステム登録管理

使用職場

化学物質
管理システム

- ・ SDS情報
- ・ 使用方法
- ・ 使用量/排出量

登録

審査

使用

使用量
報告

各種排出量
報告

- ・ 毒劇物
- ・ 安全衛生
- ・ 危険物

- ・ PRTR
- ・ 化審法
- ・ キヤノングループ
・ . . . etc

2 製造現場と連携した管理/排出量削減

製造
職場

連携

会社
化学物質
事務局



環境管理計画
による改善

化学物質に関する
会社委員会設置

各部門に
環境スタッフ配置

遵法確認のための
事前申請のしくみ

ヒアリング・調査による
正確な排出比率の設定

排出量削減提案

内部監査による指導

揮発性有機化合物（VOC） 排出削減の例



化学品の代替

揮発性有機化合物を「含まない」・「配合が少ない」化学品への代替

- アルコール系や石油系の溶剤 → 中性洗剤

使用量の抑制

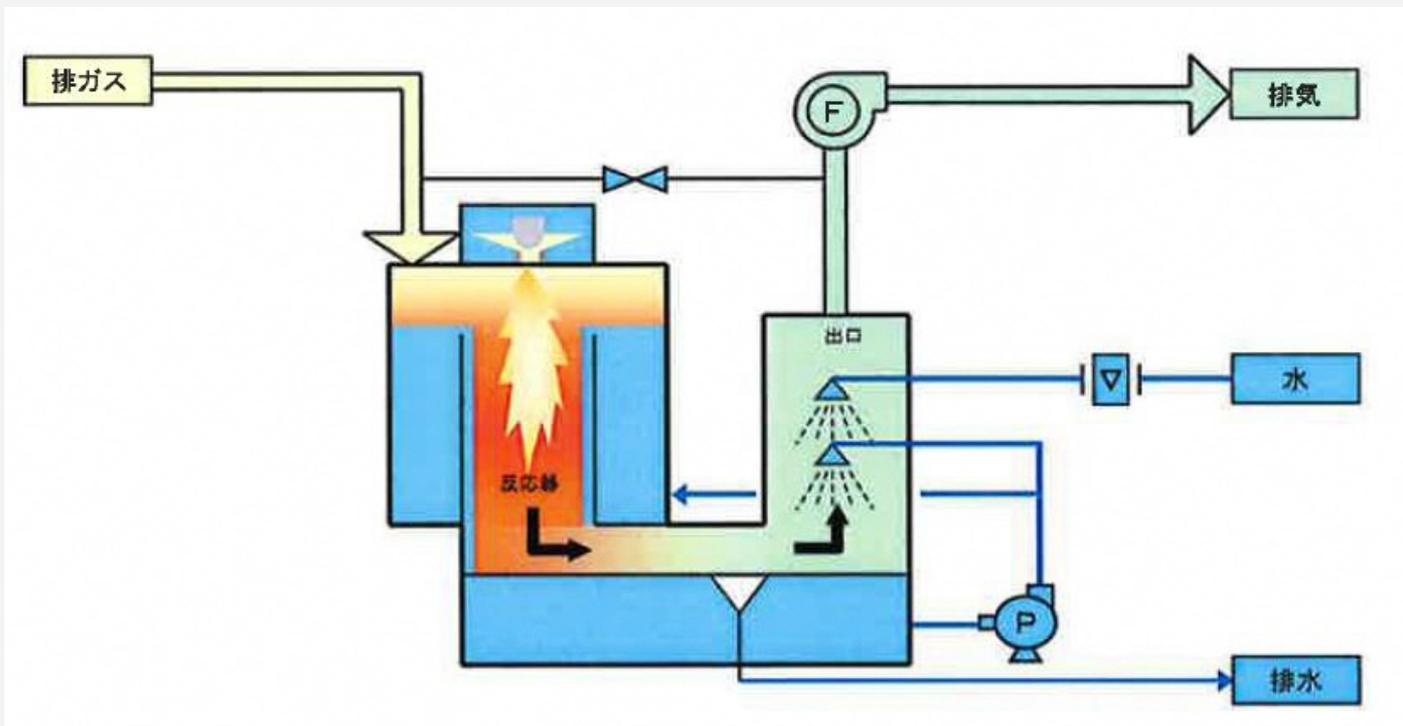
少しの工夫で使用量を抑制し、排出量削減

- 保存容器の変更（揮発しにくい容器へ）
- 使用方法の変更（漬け置き → ふき取りなど）

3

PFCガス除害

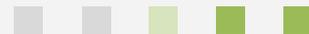
半導体関連製造において、PFC（パーフルオロカーボン）ガスを使用。地球温暖化効果が大きく、環境に悪影響を及ぼすため、生産装置に除害システムを搭載し、90%以上を除害。



今後の取り組み



進捗状況



化学物質情報の公開

いろいろな情報を
公開する会社という認識を
持ってもらう

福島キャノン
は信頼できる会社であるという
イメージの定着

各種情報の
公開

今後の
取り組み

近隣住民との信頼関係

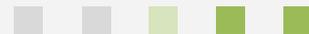


長年をかけてさまざまな取り組みにより
良好な関係を築いている

実施順



今後の課題と取り組み



STEP
1

地域との交流再開

- コロナ禍が終わり徐々に再開

サステナビリティレポートでの
情報発信は継続

STEP
2

準備

- 地域住民との密接な友好関係を保つ



STEP
3

環境の取り組みを紹介

- まずは環境への取り組み全般を紹介

省エネ

廃プラ削減



地域住民にも
受け入れやすい

リスクコミュニケーションを
目指す！

STEP
4

化学物質の情報を追加

- 化学物質の情報を追加





ご清聴ありがとうございました

